

第 25 回 高知県四万十川流域保全振興委員会（議事要旨）	
日 時	令和 2 年 2 月 13 日（木） 14:00～16:30
場 所	四万十町農村環境改善センター大会議室
参加人数	24 名（出席者名簿参照）
配布資料	<p>第 25 回高知県四万十川流域保全振興委員会 会議次第 第 25 回高知県四万十川流域保全振興委員会 会議資料一覧 第 25 回高知県四万十川流域保全振興委員会 出席者名簿 第 25 回高知県四万十川流域保全振興委員会 配席図</p> <p>議題（1）関係資料 資料 1 四万十川条例に係る令和 4 年度目標指標の取りまとめ方法について 令和 4 年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案） 参考資料 1 四万十川流域の人口動態 年齢ごとの集落人口の予想推移 追加資料 四万十川流域の人口動態</p> <p>議題（2）関係資料 資料 2-1 太陽光発電施設に係る四万十川条例許可制度の運用状況について 資料 2-2 四万十川条例許可制度の見直しについて 参考資料 2 太陽光発電施設に係る四万十川条例許可制度の運用状況（抜粋）</p> <p>その他参考資料 重点地域における許可制度のあらまし。 流域マネジメントの事例集</p>
議 事 録	
<p>○委員の開催要件の充足 委員 14 名のうち 11 名が出席。委員の過半数の出席のため、会の開催要件を充足。</p> <p>○本会の議題 1 四万十川条例に係る令和 4 年度目標指標の取りまとめ方法について 2 太陽光発電施設に係る四万十川条例許可制度の運用状況について</p> <p>○各議題について 1 四万十川条例に係る令和 4 年度目標指標の取りまとめ方法について</p> <p>【事務局】 資料 1、参考資料 1、追加資料に基づき説明。</p>	

【中越会長】

この目標指標 54 項目に関して一部変更は可能か。

【事務局（主幹）】

可能である。

【飯國委員】

【34】の漁獲高は「負」の評価であるが、一概に評価できないと思う。不確定な項目についてはあえて結論づけず「不確定」とし、備考欄に理由を記載するほうが良いのではないか。

【中越会長】

年齢ごとの集落予想推移を見て戦略を立て、集中的に取り組むことが必要。集落単位で区別されており、地図化されることは非常に有用だ。

【事務局（課長補佐）】

【14】について、耕作放棄地と地図の人口の地図を重ね合わせることで将来像が見えてくる。このようなデータを使いながら、今後の検討材料にしたい。

【中尾委員】

移住してきた若い就農者にとっては、土地が空くことはチャンスと考える方もいるため、一概に耕作放棄地が「負」とはいえない。

【飯國委員】

集落周辺の山は、地積が小さくモザイク状になっており、所持者不明の問題もあるため、これを集約するのは大きな課題である。

【事務局（課長補佐）】

地籍調査のデータや補助金を活用しながら、森林組合と林業事業者がコスト削減と集約化に取り組んでいる。

【植田委員】

1人あたりの耕作面積が小さすぎる。逆に人口減少した地域で小規模であっても土地をまとめれば、農業で生活できるのではないか。

【橋本委員】

集材時の泥が雨で道路や川に流れ濁水が発生している。この影響で川底が埋まり伏流水が生まれず状況になってしまう。林業の振興と清流保全とどう接点をもっていくか考えていく必要がある。森林認証制度もメリットがなく煩わしい印象がある。

【石川委員】

【34】について漁獲量だけをもって資源が回復したとは判断できないため、調査する必要があるのではないか。

【中越会長】

各意見について事務局で精査して、項目ごとの評価を再確認、再検討してほしい。

2 太陽光発電施設に係る四万十川条例許可制度の運用状況について

【事務局】

資料 2-1、参考資料 2-2、追加資料 2 に基づき説明。

【川村委員】

メガソーラーは条例をクリアすればいいというわけではなく、川の専門家の意見を聞いたり、住んでいる人の安全性を確保できるよう考えてほしい。

【中越会長】

氾濫時の水位を記録しておけば対応できることと、文化的価値を下げないでほしいといった要望があり、四万十市の文化的景観委員会で受理して市長にお渡しした。

【事務局（課長補佐）】

四万十川条例の目的が生態系と景観の保全であり、防災を目的とした条例となっていない。防災の観点は他法令で規制がかかっており、条例以上のものを規制することは非常に難しい。

【橋本委員】

遮蔽の樹種のウバメガシは海岸特有种であるし、カナメモチは外来種のレッドロビンがよく植えられているので、そのあたりを検討してはどうか。

【事務局（チーフ）】

複数の案を挙げて、その中から地域に合うものを選んでいただく。

【植田委員】

申請時に調査が必要な項目か判断できるようにしてほしい。大規模なものは各管理者が許認可するはずなので、各管理者に審査をお願いできる体制にするのが適当。

【事務局（主幹）】

今も各管理者の許可書を申請書に添付いただくことになっており、重複して審査するものではない。

【平塚副会長】

基準を見直してハードルを高くしても、基準を守った申請書であれば許可しなければならないため、見直し自体をもう少し検討したほうがよい。

【中越会長】

生態系の保全と地域の振興というものを維持できるような対話の機会と採決の方法がセットだと思う。地域住民との間の議論が必要ではないか。

【事務局（課長補佐）】

条例の趣旨から工作物等が地域に調和するかに主眼を置いている。ハードルを高くするのではなく、調和するための方法や、住民が何も知らない間に開発が進むという状況にならないため周知するという内容を提案している。

【中越会長】

住民の周知という部分を「周知」ではなく「参加」といった能動的に対応できる表

現のほうが良いのではないか。元々の条例の内容からみて、許可基準を厳しくするという今のやり方が果たして良いかわからない。

【川村委員】

安全性について条例の範囲外ならば最初から検討項目に入れなければ良い。矛盾を感じる。

【事務局（チーフ）】

みなさまから直接声を聴ける場で情報を多く得たいと考えて追加している。

【谷脇委員】

条例に則り遮蔽だけすれば視界が悪くなることもあるが、事業者は条例に関することだけクリアすれば良いと思っている事例がある。

【中越会長】

住民に加わっていただく範囲を検討しなければならない。

【平塚副会長】

四万十川条例にメガソーラーに特化した許可基準を作り、他の工作物と分けた方がよいのではないか。メガソーラーに特化すれば、防災・安全性もそこに組み込めるのではないか。

【溝渕委員】

四万十川条例は四万十川をいかに残していくか、文化的景観をいかに大事に守っていくかということだと思う。水没履歴や防災シミュレーションはひとつの条件として可能かどうか段階的に調査していくことが必要だ。

【西内委員】

この会の趣旨は四万十川の価値を守ろうということ。住民の意見を吸い上げる方法として、専門家会議を行い、出た結論を住民に周知し意見を吸収する方法がある。

【石川委員】

太陽光は環境影響評価に上がってこないがどうなっているのか。

【事務局（課長補佐）】

令和2年4月1日から環境影響評価法を改正し、太陽光発電施設もアセスメントの対象に加わる。ただ、大規模なものが対象で国で100ヘクタール、県条例は概ね国の半分程度の規模を対象に検討している。

【飯國委員】

合意まで規定しないようだが、「周知」を入れることによって何か変わるのか。

【事務局（チーフ及び主幹）】

合意の義務付けはできない。許可後の説明会では住民の意見が反映し辛い状況になることから、なるべく事前説明会をしていただきたいというのが我々の考えである。

実効性が担保できないことは承知しているが、事前説明会を受けて、条件の緩和の可否など許可権者の判断の補助となる。

【飯國委員】

特別な地域では小規模でもアセスメントの義務付けはできないか。また、検討項目(3)の①は潜在自然植生を意識してアピールすることで、何を植えるべきか明確に見えてくる。②は先行事例や規則があれば手掛かりとなって話が進むのではないか。

【中尾委員】

検討項目(1)においては、上位法との関連や財産権がある中で条例で対応は厳しいと思う。

(閉会)

第25回高知県四万十川流域保全振興委員会 出席者名簿

敬称略

区分	所属団体等	役職名	氏名	備考
委員	福山大学	客員教授	中越 信和	
	紙漉体験民宿 かみこや		アウテンボーガルト千賀子	欠席
	水生物研究家		石川 妙子	
	植田興業㈱	代表取締役会長	植田 英久	
	中村くらしを見直す会	代表	川村 祐子	
	四万十川流域住民ネットワーク	代表世話人	西内 燦夫	
	地域づくりの会しゃえんじり	代表	平塚 聖子	
	NPO法人 高知文化財研究所	代表	溝渕 博彦	
	津野町商工会	会長	谷脇 幸秀	
	四万十川東部漁業協同組合	理事	橋本 章央	
	環境省 中国四国地方環境事務所 専門官	代表	山下 慎吾	欠席
	高知大学	准教授	岡村 健志	欠席
	四万十川総合保全機構	会長（四万十町長）	中尾 博憲	
	高知大学	教授	飯國 芳明	
オブザーバー・随行者	四万十市環境生活課	課長	渡邊 康	
		課長補佐	濱田 英利	
	四万十町企画課四万十川対策室	課長	山本 康雄	
		室長	中井 智之	
		主任	坂東 恭平	
	中土佐町町民環境課	課長	多田 昭介	
	津野町建設課	課長補佐	吉村 伸一	
		主幹	太田 明宏	
	(公財) 四万十川財団	事務局長	神田 修	
	事務局	高知県林業振興・環境部環境共生課	課長補佐	松尾 文昭
チーフ			遠近 知代	
主幹			五藤 健信	